

国等における文化プログラム推進に向けた取組

資料2-2

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機会を活かすとともに、それ以降の多様な文化芸術活動の発展等も目指し、全国において様々な取組が展開される。

■東京2020参画プログラム

[東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会]

プログラムの枠組み

<2つのプログラム>



■東京2020参画プログラムの概要

1. 東京2020公認文化オリンピック

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム。

組織委員会、国、開催都市、会場所在地方公共団体、公式スポンサー企業、JOC、JPCが実施する大会ビジョンの実現に相応しい事業が対象。

ロゴマーク: 組織委員会が作成(公認マーク)

開始時期: 2016年10月

※組織委員会による「アクション&レガシープラン2016」

- ・「東京2020アクション&レガシープラン2016」における残すべきレガシー(文化関連)
「日本文化の再認識と継承・発展」、「次世代育成と新たな文化芸術の創造」、
「日本文化の世界への発信と国際交流」、「全国でのあらゆる人々の参加・交流と地域の活性化」
- ・東京2020文化オリンピックの集大成として「東京2020フェスティバル(仮称)」を開催(大会直前の3か月間)

(参考) ロンドン大会の「London2012 Cultural Olympiad」に相当

公認文化オリンピックロゴマーク



《参考》
London 2012 Cultural Olympiad ロゴマーク



2. 東京2020応援文化オリンピック

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

東京2020大会の関連事業として、非営利団体が実施する文化プログラム。

地方公共団体や独立行政法人を含む非営利団体が実施する、東京2020大会の機運を醸成し、オリンピック・パラリンピックムーブメントを裾野まで広げる事業が対象。

ロゴマーク: 組織委員会が作成(応援マーク)

開始時期: 2017年度予定(2016年10月 一部先行実施)

(参考) ロンドン大会の「inspire program」マークに相当

応援文化オリンピックロゴマーク



《参考》
Inspire programマーク



プログラム参画のメリット

■東京2020大会とつながる（オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成）

- オリンピック・パラリンピックとの関連性・つながりを生み出すことができる
⇒アクション主催者・参加者等に東京2020大会に向けた参加感を創出

■地域でつながる（地域住民や関係団体等との連携）

- 主催者と参加者、参加者同士のつながり等、新たな関係性を構築することができる
⇒地域が連携して機運を盛り上げていく機会を創出

■全国とつながる（活動の知名度向上と連携の拡大）

- 組織委員会から全国への情報発信を通じ、地域や団体の情報を広くPRすることができる
⇒活動の知名度向上と他団体等との幅広い連携に向けた機会を拡大

■未来につながる（次世代とのつながりやレガシーの創出）

- 幅広い交流を通じ、未来に残すべき伝統、知恵等を次の世代に継承する機会を生み出すことができる
⇒幅広い参画・交流や継続的な実施等を通じて、未来（レガシー）につながる機会を創出

- 認証を受けたアクションは、東京2020応援プログラムのロゴマークを使用することができる。
- アクションのタイトル以外（説明文等）に、「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することができる。
- 当該アクションの告知、実施、報告に「東京2020応援プログラム」の用語を使用することができる。
- プログラムに参加することによる直接的な補助金、交付金はない。



東京2020応援マーク

東京2020文化オリンピックについて

<目標>

- ① 文化の祭典として、あらゆる人々が参加できるプログラムを全都道府県において実施し、地域を活性化する
- ② 文化オリンピックを通じて、多くの若者に文化芸術への参加を促進し、創造性を育成する

<名称>

「東京2020文化オリンピック」

- リオデジャネイロ大会後に開始
- 東京大会開会前からは、集大成として、「東京2020フェスティバル（仮称）」を開催

2016年10月

2020年5月（予定）

リオ2016大会

東京2020文化オリンピック

東京2020
フェスティバル（仮称）

東京2020文化オリンピックのコンセプト

大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

残すべき4つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：日本文化の再認識と継承・発展

コンセプト②：次世代育成と新たな文化芸術の創造

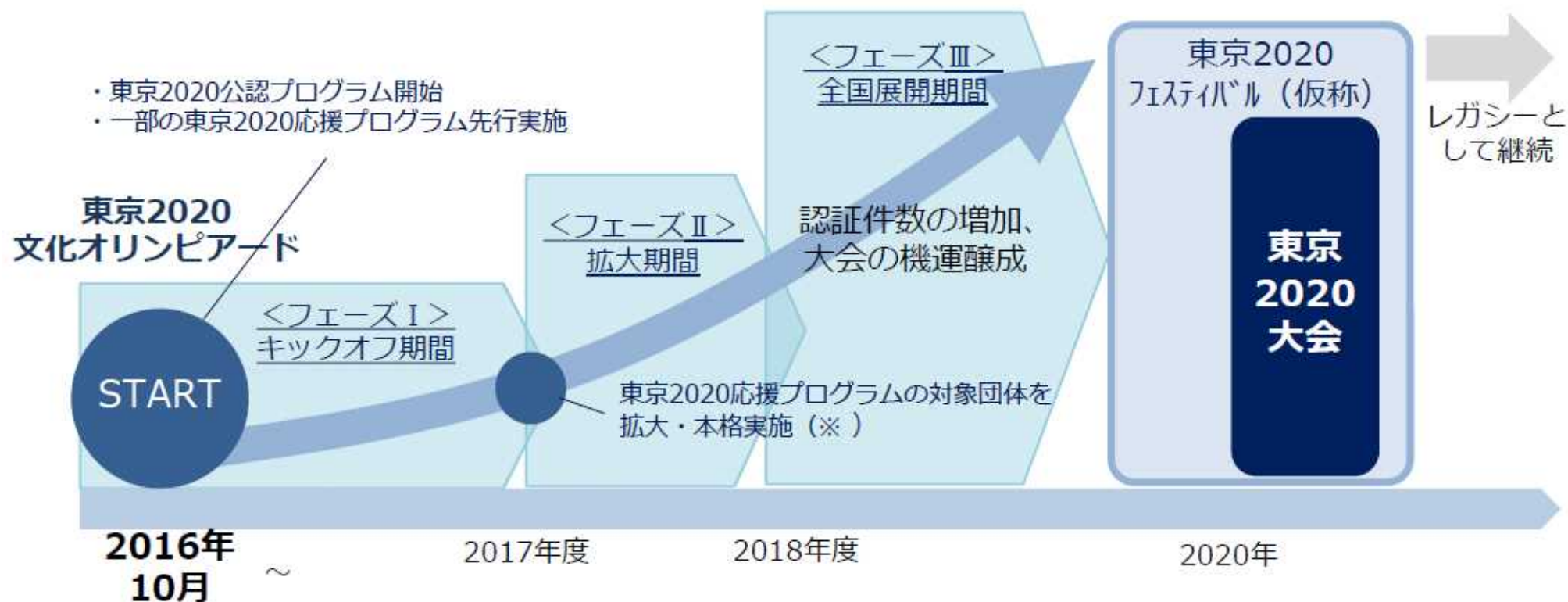
コンセプト③：日本文化の世界への発信と国際交流

コンセプト④：全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

レガシー実現に向けたアクション

- ▶ 大会ビジョン及び4つのレガシーの実現に向けて、2020年までの4年間、様々な主体における多様な取組により、文化オリンピックを展開
- ▶ 文化の祭典としてあらゆる人々が文化オリンピックに参加し、オールジャパンで盛り上げることで、国内はもとより、世界中の国・地域から訪れる多くの人々に対し、日本の文化の力を発信

今後の東京2020文化オリンピックのスケジュール



※ 東京2020文化オリンピックについてはIOC と継続的な調整が必要なこと、また、立ち上げ時には案件毎の審査を丁寧に行う必要があること等を鑑みると、2016年10月のスタート時は、まずは対応可能な範囲でスタートさせ、その後、段階的に対象を拡大していく予定
(例) 都内の区市町村を経由して申請する非営利団体は、2017年度から申請対象とする予定

- 応援プログラムは、2016年10月から一部先行実施されているが、申請対象は府県・政令市や経済界協議会（日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、東京商工会議所）に限られる。
- 2017年度以降の本格実施に向けて、市町村や非営利団体にも申請対象を拡大予定。
- スポンサー企業以外の営利団体は申請対象にならない。

■beyond2020プログラム

[2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成に関する関係府省庁連絡・連携会議]

beyond2020プログラム

内閣官房オリパラ事務局、内閣府知的財産戦略推進事務局、文化庁、東京都

国、地方公共団体、公益法人、企業（公式スポンサー以外の企業を含む。）等が実施する、地域性豊かで多様性に富み、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラム

・日本文化の魅力を発信する取組であり、障害者にとってのバリアや訪日外国人にとっての言語の壁を取り除くなど、すべての人が参画できる社会に向けて、企業等の行動に変革を促す仕掛けとなるイベント等が対象。

※ 平成28年3月2日に開催された「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成に関する関係府省庁連絡・連携会議」（議長：内閣官房オリパラ事務局長）で本プログラムを推進していくことを了承。

◆beyond2020プログラムロゴマーク （内閣官房オリパラ事務局が作成）

- 「サムズアップ」をモチーフに制作。「b」とサムズアップの形を掛け合わせたデザイン。
- 「いいね」や「グッド」のように、国籍、性別、年齢など様々な壁を越えて、多くの人に前向きなイメージを与え、「beyond2020」の活動が大きく広がるように、活動的、活発的なイメージと、日本らしさも兼ね備えた明るい未来を作っていくという意味で、朱色を使用。



◆スケジュール

- 平成28年12月26日 内閣官房オリパラ事務局において認証申請受付開始
- 平成29年1月31日 認証、ロゴマーク付与スタート

■beyond2020プログラムの概要

◆beyond2020プログラムの趣旨

2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開する（2016年3月開催の第2回2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議にて決定）。

◆beyond2020プログラムの認証要件

○日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出するため、以下を認証要件とします。

<beyond2020プログラムの認証要件>

●日本文化の魅力を発信する事業・活動

※日本文化とは、伝統的な芸術からクールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、和食などの食文化、祭りや伝統的工芸品など、多様なものを含んでいます。

●多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動

- ・障害者にとってのバリアを取り除く取組
- ・外国人にとっての言語の壁を取り除く取組

◆beyond2020プログラムの実施主体

○公的機関のほか、民間事業者、その他任意団体等幅広い方が実施する事業・活動が認証の対象となり、営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動を認証します。

国等における文化プログラム推進に向けた取組一覧

		文化を通じた機運醸成策に関する 関係府省庁等連絡・連携会議	大会組織委員会	
プログラム		beyond2020 プログラム	東京2020公認 文化オリンピックアード	東京2020応援 文化オリンピックアード
ロゴマーク				
説明		2020年以降を見据えレガシー創 出に資する文化プログラム	「オリンピック憲章」に基づいて行われる公式文化プログラム	
ポイント		営利・非営利団体を問わず幅広い 団体の事業・活動の申請が可能	東京大会の主なステークホルダー (スポンサー、会場関連自治体な ど)を中心に展開	東京大会のステークホルダー以外 の自治体や非営利団体を中心に 全国で広く展開
イベント・事業実施主体	スポンサー企業	○	○	
	国	○	○	
	開催都市 (東京都)	○	○	
	会場所在 地方自治体	○	○	
	上記以外 地方自治体	○		○
	非営利団体 (NPO、NGO等)	○		○
	ホスポンサー 企業	○		

2020年に向けた文化プログラム（概観）

年月	フェーズ	政府、地方自治体等の取組例
2016 10月 12月	キックオフ期間	<p>東京 2020 公認文化オリンピックアードの開始</p> <p>beyond 2020 プログラムのロゴマーク、ガイドラインの公表</p> <p>オリパラ基本方針、beyond 2020 プログラム（オリパラ事務局）、東京 2020 参画プログラム（組織委員会）等に基づき、関係機関は連携して取組を実施</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>文化庁 各省庁（ファッション、食、国際交流、観光等） 地方自治体、文化団体等</p> <p>↓ ↓ ↓</p>
2017	拡大期間	<p>東京 2020 応援文化オリンピックアードの本格開始</p> <p>↓ ↔ ↓ ↔ ↓</p> <p>連携 連携</p>
2018	全国展開期間	<p>明治 150 年関連施策と連動した取組を実施</p> <p>↓ ↔ ↓ ↔ ↓</p>
2019		<p>オリンピック・パラリンピックイヤーの前年として、プレイベントを実施</p> <p>↓ ↔ ↓ ↔ ↓</p>
2020	オリンピック・パラリンピックイヤー	<p>東京 2020 フェスティバル（組織委員会）と連動したインパクトのあるプロジェクトを実施</p>